花 岡 中 学 区

1　はじめに

部会テーマ「花岡の子どもたちが健やかに成長するための小・中連携はどうあればよいか～自己有用感を高める活動を通して～」も今年で３年目になる。しかも，今年度をもって花岡中学校は閉校となるため，花岡中学校区としては最後の小・中連携になる。これまでの連携に感謝すると共に，「北陽中学校」になっても，健やかではつらつとした花岡の子どもたちであるようにとの願いのもと，交流した１年間であった。

2　今年度の取組

月　　日	実　践　内　容	月　　日	実　践　内　容
４月２８日	第１回小・中連携委員会 （今年度の活動計画について）	９月　５日	６年生の中学校訪問（二中）
６月　３日	指定訪問参観①(小学校　算数)	１１月２９日	保・小・中ＰＴＡ合同研修 「子どものよいところを 見つけられたら」
７月　１日	指定訪問参観②(中学校　数学)		
９月　４日	小・中連携研究会　中学校会場 （授業参観，研究会）	３月１１日	第２回小・中連携委員会 （今年度の反省）

3　活動の実際

９月４日の小・中連携研究会では，学習面と生徒指導面について，自己有用感を高める主な手立てとして，以下の点を確認できた。

⑴　生徒主体の授業の構築について

①　学習意欲を引き出す課題を提示する。

前時の生徒のふりかえりやつぶやきなど，生徒の疑問を生かした課題づくりを心がける。

②　テンポの良い授業を目指す。

教師の無駄な言葉を省き，その分，生徒の発言を増やす。生徒同士で付け足したりまとめたりできるよう，教師は学び合いのコーディネーターに徹する。小・中ともに生徒による「つなげる発表」を継続する。それが，北陽中学校でも生きるはずである。

【小・中連携研究会２年数学】

⑵　生徒主体の活動の取組について

①　上級生やリーダーを生かした活動を多く取り入れる。

児童・生徒集会の企画・実施を子どもたち主体で取り組むことで，上級生の主体性や自己有用感が高まる。その姿から，下級生が刺激を受けたり学んだりする。

②　児童・生徒の意見を取り入れた活動を定期的に行う。

自分たちの意見が取り入れられることで，主体的に活動できるようになる。次への意欲も湧く。初めは時間がかかるが，次第に効率よくできるようになる。これも経験である。

⑶　授業交流

例年通り，お互いの指定訪問研究会等への参加を実施した。また，昨年同様，小学校の学習発表会に向けての歌唱指導を中学校の音楽科が行った。

4　おわりに

中学校の統合を前にして，環境の変化に負けず，生き生きと活動できる子どもを育てようと，小・中手を携えて取り組んできたが，ようやく明るい兆しが見えてきた。残された数ヶ月，自己有用感がさらに高まり，はりきって北陽中学校に進学する子どもの姿を楽しみにして，花岡の子どもたちを育てていきたい。